

# 情熱の種 未来へ

新しい経営理念で地域農業をリードする青年農業者らを顕彰する「第七十七回中日農業賞」(中日新聞社主催、農林水産省と中部九県後援)の受賞者が決まった。農林水産大臣賞と中日賞に各一人、優秀賞に七人、特別賞に一人と一団体が選ばれた。贈呈式は十六日、名古屋市中区の中日パレスで行われる。受賞者・団体の功績を紹介する。

## 上村光太郎さん(40) 静岡県磐田市

### 農林水産大臣賞

二〇一六年に株式会社「パシオス」を設立、静岡県磐田市内の約二十五畝の農場やハウスでアスパラガスやキャベツを中心に季節に合わせた野菜を栽培している。取り組みは生産だけでなく、地域内外の先輩や農業関係者はとどまらず、農産物の品質研究、地域や学校などでの農業の普及啓発活動、東南アジアやオセアニアでの農業コンサルティングなど幅広い分野に及ぶ。信条は「働く地域と仲間を豊かにする」。会社名はイタリア語の「情熱」に由来、多くの人たちの情熱が重なり合って共に成長するとの願いが込められている。「農業の未来をみんなの情熱で育てていきたい」



アスパラガスの周年栽培を目指す上村さん＝静岡県磐田市で

八年前、製造業の会社員からそれまで全く未経験だった農業に挑戦。近所の農家が使わなくなった二軒の農地を借りて野菜栽培を始めたものの、当初は商品レベルに達せず、農業の難しさを痛感した。そんな勢いだけで飛び込んだ未熟な新参者に、地域内外の先輩や農業関係者は快くノウハウを授け、休耕地を提供してくれたという。「皆さんの支援の結晶がこの受賞。感謝です」。経営は次第に軌道に乗り、現在は社員三人、外国人技能実習生を含めたパート約三十人と共に農業を営む。

目標は地域の農業環境づくり。仲間たちと農業を続けられる組織、環境の構築を目指し、自分を育ててくれた地域に恩返ししたい、と力を込める。

### 特別賞

## 鋤柄雄一さん(48)

愛知県豊田市

愛知県豊田市で養豚業を営み、消費者に目に見える形でこだわりを伝えようと、二〇一〇年には、自社ブランド「三州豚」を立ち上げた。調理や加工、販売も関連会社で一貫して手掛け、多角的な経営モデルを確立した。

同年、若手農家グループ「夢農人とよた」を設立。軽トラ市などを定期的に企画し、地域の農畜産物の魅力を伝える。一五年には会員が育てた野菜や肉を販売する常設店を開業。最近、小中学校で出前授業をして、食育にも力を入れている。「目に見える安心安全、おいしさをお客さんの人に伝えていきたい」

## 目に見える安心安全

道(の)駅湖北みずどりステーション(滋賀県長浜市湖北町)で、農産物の加工品を製造・販売する。地元(の)ニンジンやゴボウが入った山菜ごはん(戦国いなり)は看板商品。郷土料理「焼きサバそうめん」、琵琶湖産のエビで作った「エビ豆腐」も含め、品目は五十以上だ。

## 郷土の味を次世代に

住民のほか、琵琶湖の水鳥の撮影に訪れたアマチュアカメラマンらが買い求める。売り上げが伸び、二〇一〇年五月には、スタッフの女性らが出資して有限責任事業組合(LRP)を設立。北村洋子代表(お)は「郷土の味を次世代につなごう」と意気込む。

## 有限責任事業組合 おふく

滋賀県長浜市

## 耕作放棄地解消に力

### 中日賞

## 金田雄介さん(41)

富山県南砺市

農地中間管理機構(農地バンク)を活用して、農地集積を進めている。栽培するのは面積当たりの労働時間が短い米と大豆が中心。「大切な土地を預かっているので雑草だらけにしてはいけない」と、従業員九人で約百畝の農地管理に奔走している。専門学校を卒業後、二十歳で家業の農家を継いだ。当時預かっていた農地は現在の四分の一ほどの面積だったが、



農地を集積し米を作っている金田さん＝富山県南砺市利屋で

## 第77回 中日農業賞

### 優秀賞

## 都築興治さん(32)

愛知県阿久比町



大学卒業後に農業生産法人「サラダボウル」(山梨県)で三年間、農地の管理や生産技術を学び、地元で就農。米農家だった父から有限会社を受け継ぎ、米の

## 農場ブランド20品目

ほかキャベツやブロッコリーなど二十種類の野菜を生産している。米ぬかなどを使ったばかり肥料を使い、食味良く育てた作物を「つづき農場」ブランドで販売。地道に営業を続け、現在は地元・知多半島のスーパーのほとんどで取り扱われている。「農業を産業として発展させたい。働く環境を良くして、人が集まる産業にしていきたい」と語る。

## 清水琢也さん(41)

岐阜県飛騨市

標高九百メートルを超える岐阜県飛騨市神岡町の山之村地区でホウレンソウ、特産の寒干し大根、カボチャなどの多角経営を手掛ける。家族のほか、人口約百五十人の集落でパート従業員十一人を雇用する。



## 山村地区で多角経営

会社員を経て二〇一二年に実家に戻り、農業を継いだ。作業場の改良などで、手間がかかるホウレンソウの根切りや葉を取り除く作業の効率を上げた。三年前から、目標量が出荷できた日には大入り袋を従業員に配っている。「一人ではできない仕事。感謝の言葉や行動を大事にして、楽しい職場にしたい」

## 福田力也さん(40)

三重県名張市

ダム湖を見下ろす高台に、ブドウ狩り用の観光農園が十六戸連なる三重県名張市青蓮寺地区で、生産から加工、販売までの六次産業化の先頭に立つ。高齢化

